キャラクター名
錆切 傷（さびき しょう）

プレイヤー名

シンドローム	バロール ハヌマーン	ワークス	FHセルリーダーC	カヴァー	楽器屋の店主
オプショナル		年齢	30歳	性別	男
覚醒	探求	衝動	加虐	初期侵食率	29 %
出自	安定した家庭	経験	大成功	邂逅	享楽

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1		0			1
感覚	2		0			2
精神	3	1	3			7
社会	2		0			2

HP	29
行動値	11
(非装備時)	11
戦闘移動	16
全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	4		交渉		
回避			知覚			意志	3		調達	1	
運転：			芸術：			知識： 楽器	2		情報： FH	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
100↓:凪の風	ＲＣ	9r+4		13		C値8。装甲無視。コスト8 (vent calme)
100↑:どうかその音を聞かせておくれ	ＲＣ	10r+4		16		C値7。〃 (s'il vous pla□t)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：FH幹部	
情報収集チーム	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
亜純血	P 有為	N 無関心		
勧誘してくれた人	P 好意	N 不信感		
PC1	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ：バロール	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果： C値-Lv								
黒の鉄槌	5	1	ﾒｼﾞｬｰ	視界	-	<RC>	-	
効果： 攻+(Lv*2+2)の射攻。同エン不可								
振動球	1	3	ﾒｼﾞｬｰ	視界	-	<RC>	-	
効果： (攻+Lv)の射攻。装甲無視								
黒星の門	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	ﾋﾟｭｱ	
効果： 判+(Lv+1)D。同エン可								
援護の風	5	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	-	
効果： 判定直前。判定+LvD。1回/ﾗｳﾝﾄﾞ								
時の棺	1	10	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	100%	
効果： 判定を失敗に。1回/ｼﾅﾘｵ								
ディメンジョンゲート	1	3	ﾒｼﾞｬｰ	至近	-	自動	-	
効果： どこでもドア								
蝙蝠の耳	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自信	自動	-	
効果： 音を聞き分け								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

■パーソナル
「あっ、いらっしゃいっ。楽器に興味があるの？　いいよいいよ、好きに見ていってよっ。試しに演奏も出来るからさ！」
「趣味？　あるけど、ちょっと言葉にするのが難しくてね……。また今度機会があれば話すよっ」
「仕事？　うん、勿論いいよ。だって僕のところに来るってことは、『そういう仕事』でしょ？」
陽気で人当たりの良い青年。一人称は「僕」二人称は「君」。
楽器屋の店主をしているが、本人はまだ勉強中で他の店員（セル員）の方が詳しかったりする。
ボイスレコーダーを服の内側に忍ばせており、常に音を収録している。理由は後述。

■FHになるまで
ごく普通の一般家庭の生まれ。人よりちょっと耳が良く音感にも優れていたが、だからどうということもなく。進路どうしよっかなーと悩む男子高校生だったある日、帰宅すると家に謎の男が押し入り母を人質にとっていた。
「どうしよう」と混乱していると、男が謎の力（レネゲイド）を使い母を痛めつけてみせる。その時に母が上げた悲鳴を聞いた瞬間、彼の中でスイッチが入る音がした。
血が湧きたって沸騰する感覚と共に彼が抱いたのは『それをもっと聞きたい』という欲求。
暴走状態になりながら、彼はそのまま男を痛めつけ絶命するに至るまでの苦悶の声を聴き、ついでに隣の女にも同じことをした。
少し落ち着いて、さてどうしようかと思案していると、さらに別の男（※1）が現れ、事態を簡単に説明する。
既に肉塊になっている男の方は、元はFHからの脱走者で始末対象だったらしく、対処の手間が省けたということ。そして、FHという組織への勧誘。彼がそれを断るはずもなく、組織への参画を決めた。

とはいえ、入ってみてもエージェントとしての活動が多く、正直物足りない。もっと自由に行動したい。
そう思った彼は、数年はFHエージェントとして卒なく暮らし知識や処世術を身に着けた後、手近な所にあるFHセルを襲撃した。
そこはたまたま楽器屋で、楽器のことに詳しいわけではない彼は、セル員の何人かを生かし、セルリーダーの名前を自分の名前に書き換えた。